

科目名	情報科学 I						
科目名(英)	Information Science I						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	中西 真由美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	社会が望んでいる医療の情報化を実現する為に、情報の管理や情報の利用について正しく理解する事が不可欠であり、看護師の情報活用能力を高めることを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			ワードの基本的機能から応用的機能までの方法やテクニックが実践できる。	
	○	○	○			エクセルのグラフ機能を用いてデータの処理ができる。	
	○	○	○			パワーポイントを用いてプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	実教出版 30時間でマスター Word&Excel 2016 Windows7対応						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	情報科学の基礎			配布資料の事前通読		
	2	Wordの基本操作① (キーボード操作, 簡単な文章入力, ローマ字入力, )			配布資料の事前通読		
	3	Wordの基本操作②(簡単な文章入力と文書作成と編集, 表作成, )			配布資料の事前通読		
	4	Word応用編① (文書に表入りの文書を作成する, 図と表の挿入)			配布資料の事前通読		
	5	Word応用編② (縦書き文章, 段組み, その他の応用機能を学ぶ)			配布資料の事前通読		
	6	Wordまとめ			配布資料の事前通読		
	7	Excelの基礎的操作① (表作成, 色, セルに関する操作, 基礎機能の理解)			配布資料の事前通読		
	8	Excelの基本操作②(グラフ作成, グラフの編集機能と補助的な機能)			配布資料の事前通読		
	9	Excelの関数を用いたデータの処理			配布資料の事前通読		
	10	Excelまとめ			配布資料の事前通読		
	11	パワーポイントの操作方法 その1			配布資料の事前通読		
	12	パワーポイントの操作方法 その2			配布資料の事前通読		
	13	パワーポイントの操作方法 その3			配布資料の事前通読		
	14	インターネットについて			配布資料の事前通読		
15	まとめ			配布資料の事前通読			
評価方法	試験はワード・エクセルのみ。 60%以上を合格都市、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	講義中の実技			◎			20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

<b>科目名</b>		<b>生命倫理</b>					
<b>科目名(英)</b>		Bioethics					
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30	<b>担当者</b>	脇 嵩晴		
<b>実施年度</b>	2019年度	<b>実施時期</b>	前期	<b>実務家教員 担当科目</b>	○		
<b>対象学科・学年</b>		看護科 1年生					
<b>授業概要</b>		生命に対する基本的権利や倫理を知り、生命の尊厳と専門職としての倫理とは何かについて考えを深める					
<b>授業形式</b>		講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
<b>学習目標 (到達目標)</b>	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				安楽死についてそれを「なぜそうすべきか?」という根拠をもって説明できる。	
	○	○				ホスピスの思想についてそれを「なぜそうすべきか?」という根拠をもって説明できる。	
	○	○				臓器移植についてそれを「なぜそうすべきか?」という根拠をもって説明できる。	
	○	○				人工臓器・異種移植・再生医学・生殖医療についてそれを「なぜそうすべきか?」という根拠をもって説明できる。	
	○	○				インフォームド・コンセントについてそれを「なぜそうすべきか?」という根拠をもって説明できる。	
	○	○				人工妊娠中絶についてそれを「なぜそうすべきか?」という根拠をもって説明できる。	
<b>テキスト・教材 参考図書</b>		考えよう! 生と死のこと——基礎から学ぶ生命倫理と死生学——					
<b>授業計画</b>	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	哲学の一分野としての生命倫理学			配布資料の事前通読		
	2	安楽死・尊厳死の定義			配布資料の事前通読		
	3	患者の苦痛、生きる意味、死の恐怖			配布資料の事前通読		
	4	医療従事者の倫理、権利と義務			配布資料の事前通読		
	5	安楽死肯定論と否定論			配布資料の事前通読		
	6	WHOの緩和ケアの定義			配布資料の事前通読		
	7	SOLとQOL、患者の自由と幸福			配布資料の事前通読		
	8	脳死と臓器移植、脳死は人の死か?			配布資料の事前通読		
	9	臓器不足、各国の臓器移植制度と自己決定			配布資料の事前通読		
	10	人工臓器の技術的な問題、種を超えた移植をめぐる諸問題			配布資料の事前通読		
	11	クローン技術、ES細胞研究の問題点、出生前診断の倫理的問題			配布資料の事前通読		
	12	インフォームド・コンセントとパートナーリズム			配布資料の事前通読		
	13	インフォームド・コンセントという思想、ガン告知、輸血拒否			配布資料の事前通読		
	14	中絶反対論の論理、胎児の生きる権利			配布資料の事前通読		
	15	中絶擁護論の検討			配布資料の事前通読		
<b>評価方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験にて評価を行う。</li> <li>・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
<b>履修上の注意</b>		出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	人間関係論						
科目名(英)	Human Relations Theory						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	野見山 待子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	人間は他者との関わりの中で成長発達を遂げていくものであり、看護は人間関係の上で成り立つものであると言う考えのもとに、円滑な人間関係を養っていく事の必要性を理解させる。若者のコミュニケーション能力の低下が社会問題となっている中で、人との関係性について、演習を通してその具体的な技術とともに学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 自己や他者の存在の意味を理解し、自分の言葉で説明できる。	
	○	○				2. 自己と他者の関係の構造を理解し、自分の言葉で説明できる。	
	○	○				3. 対人コミュニケーションスキルを学習し、習得する。	
	○	○				4. 社会状況における「自己-他者関係」を理解し、社会的コミュニケーションスキルを習得することができる	
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料 『人間関係論入門』(岡堂哲雄著 金子書房) 『対人スキルズ・トレーニング』(福井康之著 ナカニシヤ出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自己や他者の存在の意味を理解			配布資料の事前通読		
	2	自己と他者の関係の構造を理解			配布資料の事前通読		
	3	対人コミュニケーションスキル: 言語コミュニケーションと非言語 コミュニケーション			配布資料の事前通読		
	4				配布資料の事前通読		
	5	対人コミュニケーションスキル: 自己表現			配布資料の事前通読		
	6				配布資料の事前通読		
	7	対人コミュニケーションスキル: 共感			配布資料の事前通読		
	8				配布資料の事前通読		
	9	社会的コミュニケーションスキル: 社会関係のディスプレイ			配布資料の事前通読		
	10				配布資料の事前通読		
	11	社会的コミュニケーションスキル: 自己演出と自己管理			配布資料の事前通読		
	12				配布資料の事前通読		
	13	社会的コミュニケーションスキル: 関係の停滞			配布資料の事前通読		
	14				配布資料の事前通読		
15	社会的コミュニケーションスキル: 葛藤			配布資料の事前通読			
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 *コミュニケーションスキルは、講義中に演習にて評価を行うが点数に含めない。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	カウンセリング						
科目名(英)	Counseling						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	大黒 剛		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	後に続く看護カウンセリングの基礎として、人間を個性あるものとして捉え、真に全体的人間として把握することの必要性、さらに接近の仕方などを学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 看護におけるカウンセリングマインドの必要性について説明できる	
	○	○				2. 看護現場におけるカウンセリング的なかかわりの活用について考え、説明できる	
	○	○				3. 以下の項目について説明できる。 1) 無意識 2) 自我の構造 3) 防衛機制 4) 精神力動的診断 5) 非指示的アプローチ 6) クライアント中心療法 7) エンカウンター・グループ 8) 三条件	
	○	○				4. 自分や周囲の人々の理解にカウンセリング理論を活用して、文章化できる	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 心理学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	カウンセリングマインド				配布資料の事前通読	
	2	カウンセリングと看護				配布資料の事前通読	
	3	カウンセリングの理論 フロイトとロジャーズ				配布資料の事前通読	
	4	無意識				配布資料の事前通読	
	5	自我の構造				配布資料の事前通読	
	6	防衛機制				配布資料の事前通読	
	7	精神力動的診断				配布資料の事前通読	
	8	非指示的アプローチ				配布資料の事前通読	
	9	クライアント中心療法				配布資料の事前通読	
	10	エンカウンター・グループ				配布資料の事前通読	
	11	三条件				配布資料の事前通読	
	12	様々な場面でのカウンセリング演習				配布資料の事前通読	
	13					配布資料の事前通読	
	14					配布資料の事前通読	
15	配布資料の事前通読						
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	外国語 I						
科目名(英)	Foreign language I						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	マックス・ゴンザレス ロ バート・ミッドラム		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	英語で患者と意思疎通を図るための看護英会話(基礎)を学ぶ						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				急に英語で話しかけられたときの対応ができる	
	○	○				自己紹介のときの基本的な質問と答え方ができる。	
	○	○				丁寧な質問の仕方ができる。	
	○	○				住所・電話番号・日付の読み方・書き方ができる。	
	○	○				初診患者が訪れたときの基本的な質問ができる	
	○	○				病院の案内図をもとに道順の尋ね方と答え方ができる。	
	○	○				症状の尋ね方がわかる。	
	○	○				External Body Parts とInternal Body Parts の名称がわかる。	
	○	○				病歴の尋ね方がわかる。	
	○	○				薬の服用に関する表現ができる。	
	○	○				時間の表現ができる。	
○	○				手術に関する表現ができる		
テキスト・教材 参考図書	クリスティーンのやさしい看護英会話 Challenge Book						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Please speak more slowly.			配布資料の事前通読		
	2	Where are you from ?			配布資料の事前通読		
	3	Could you tell me your address, please ?			配布資料の事前通読		
	4	Where does it hurt ?			配布資料の事前通読		
	5	What are your symptoms ?			配布資料の事前通読		
	6	Have you ever had any serious illnesses ?			配布資料の事前通読		
	7	What department do you want to visit ?			配布資料の事前通読		
	8	Take one tablet, four times a day.			配布資料の事前通読		
	9				配布資料の事前通読		
	10	Let me make an appointment for your test.			配布資料の事前通読		
	11				配布資料の事前通読		
	12	Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.			配布資料の事前通読		
	13				配布資料の事前通読		
	14	How are you feeling today ?			配布資料の事前通読		
15	配布資料の事前通読						
評価方法	・2名の講師による口頭試問と筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	口頭試問・筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	保健体育						
科目名(英)	health and physical education						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	中村 忠紀		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	スポーツを通して健康管理の重要性また他者との協調性・メンバーシップ・リーダーシップを学ぶために設定した。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			スポーツを通して健康の保持増進と体力の向上を図ることの必要性を説明することができる。	
	○	○	○			実技を通して、自己、他者との交流を深め、身体活動の楽しさを表現できる。	
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	保健体育の目的				各スポーツチームの編成	
	2	健康・体力とは					
	3	健康に対する自己管理					
	4	体育実技 ・バレーボール ・大縄跳び ・バスケットボール					
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	・60%以上を合格都市、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	運動能力評価			◎			20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	解剖生理学 I 消化器						
科目名(英)	Anatmy Physiology I Digestive Ogarn						
単位数	1単位	時間数	7/30	担当者	増本陽秀		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、消化器に関する身体臓器を学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 消化器の意味を述べる事が出来る。	
	○	○				2. 消化器官の名称を述べる事が出来る。	
	○	○				3. 消化器官系の主要な構造を説明できる	
	○	○				4. 消化器官系の主要な役割を説明できる。	
	○	○				5. 消化器官の調整機能を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 1 人体の構造と機能 解剖生理学 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	口腔、舌、唾液腺、咀嚼と嚥 下				配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読	
	2	咽頭と食道、食道の蠕動運動と生理的狭窄部					
	3	腹部消化管,肝臓・胆嚢・膵臓					
	4	まとめ					
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(増本)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 解剖生理学 I 1単位取得には、(解剖生理学 I 内分泌100%+消化器100%)/2=60%以上が必要。						

科目名	解剖生理学 I 内分泌器						
科目名(英)	Anatmy Physiology I Endocrine organ						
単位数	1単位	時間数	8/30	担当者	坂井二郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、内分泌器に関する身体臓器を学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 内分泌の意味を述べる事が出来る。	
	○	○				2. 内分泌器官の名称を述べる事が出来る。	
	○	○				3. 内分泌系の主要な構造を説明できる	
	○	○				4. 内分泌系の主要な役割を説明できる。	
	○	○				5. 主要なホルモンの調整機能を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 1 人体の構造と機能 解剖生理学 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	内分泌の概念、ホルモンの概念、フィードバック調整				配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
	2	GHの作用と分泌調整、甲状腺ホルモンの作用と分泌調整、オキシトシンの作用と分泌調整					
	3	上皮小体ホルモン、膵臓の内分泌機能					
	4	アルドステロン、消化管ホルモン					
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(坂井)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 解剖生理学 I 1単位取得には、(解剖生理学 I 内分泌100%+消化器100%)/2=60%以上が必要。						



科目名	解剖生理学Ⅱ 血液						
科目名(英)	Anatmy Physiology II Blood						
単位数	1単位	時間数	4/30	担当者	和田麻美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、血液について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 血液型について説明できる。	
	○	○				2. 凝固と線溶について述べる事が出来る。	
	○	○				3. 赤血球と白血球の機能と構造について述べる事が出来る。	
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 1 人体の構造と機能 解剖生理学 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	白血球と赤血球について				配布資料の事前通読 解剖生理学 総論 通読	
	2	凝固と線溶、血液型について					
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(和田)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 解剖生理学Ⅱ1単位取得には、(解剖生理学Ⅱ総論100%+循環器100%+血液100+呼吸器100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	解剖生理学Ⅱ 呼吸						
科目名(英)	Anatmy Physiology II Blood						
単位数	1単位	時間数	8/30	担当者	飛野和則		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、呼吸器について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				鼻腔の機能、鼻出血の好発部位を述べられる。	
	○	○				副鼻腔の種類を4つ挙げられる。	
	○	○				喉頭蓋の運動、喉頭を構成している軟骨(喉頭軟骨)を挙げることができる。	
	○	○				気管の構造、肺葉の構造、気管支の分岐について説明できる。	
	○	○				肺胞上皮細胞を2種類挙げ、それぞれの機能を説明できる。	
	○	○				換気(吸息・呼息)、呼吸曲線(肺気量分画)を描くことができる。	
	○	○				拘束性換気障害と閉塞性換気障害の特徴を説明できる。	
	○	○				酸素解離曲線および、酸素運搬の仕組みを説明できる。	
	○	○				呼吸中枢・中枢化学受容器・末梢化学受容器の関連を指摘できる。	
○	○				種々の呼吸(異常)パターンを説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 1 人体の構造と機能 解剖生理学 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	鼻腔の機能、鼻出血の好発部位、副鼻腔の種類、喉頭蓋の運動、喉頭を構成している軟骨(喉頭軟骨)			配布資料の事前通読 解剖生理学 総論 通読		
	2	喉頭蓋の運動、喉頭を構成している軟骨(喉頭軟骨)					
	3	気管の構造、肺葉の構造、気管支の分岐、肺胞上皮細胞換気(吸息・呼息)について					
	4	呼吸曲線(肺気量分画)、拘束性換気障害と閉塞性換気障害の特徴、肺の拡散能が低下、酸素運搬の仕組み、酸素解離曲線の仕組み、呼吸中枢・中枢化学受容器・末梢化学受容器の関連、種々の呼吸(異常)パターン					
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(飛野)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 解剖生理学Ⅰ1単位取得には、(解剖生理学Ⅱ総論100%+循環器100%+血液100+呼吸器100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	解剖生理学Ⅱ 循環						
科目名(英)	Anatmy Physiology II Circulation						
単位数	1単位	時間数	8/30	担当者	田中あずさ		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、循環について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 循環器のしくみについて述べる事が出来る。	
	○	○				2. 心臓の構造について説明できる。	
	○	○				3. リンパの流れと機能について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 1 人体の構造と機能 解剖生理学 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	循環器のしくみ				配布資料の事前通読 解剖生理学 総論 通読	
	2	心臓について(血管・内皮・中皮・上皮)					
	3	リンパについて					
	4	まとめ 振り返り					
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(田中)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 解剖生理学Ⅰ1単位取得には、(解剖生理学Ⅱ総論100%+循環器100%+血液100+呼吸器100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	解剖生理学Ⅱ 総論						
科目名(英)	Anatmy Physiology II General Remarks						
単位数	1単位	時間数	6/30	担当者	山田哲久		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、細胞と組織、解剖学的用語について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 解剖生理学とは述べる事が出来る。	
	○	○				2. 細胞小器官の構造について述べる事が出来る。	
	○	○				3. 細胞の機能について説明できる。	
	○	○				4. 漿膜、粘膜の構造と機能について説明できる。	
	○	○				5. 皮膚の構造と体温調整機能について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 1 人体の構造と機能 解剖生理学 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	解剖学・生理学とは				配布資料の事前通読 解剖生理学 総論 通読	
	2	細胞小器官の構造、細胞の機能					
	3	漿膜、粘膜、結合組織性の膜、皮膚・体温、体温調整					
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(山田)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 解剖生理学Ⅰ1単位取得には、(解剖生理学Ⅱ総論100%+循環器100%+血液100+呼吸器100%)/4 =60%以上が必要。						

科目名	解剖生理学Ⅱ 骨筋					
科目名(英)	Anatmy PhysiologyⅢ Bones and Muscles					
単位数	1単位	時間数	10/30	担当者	原俊彦 新鹿深夏	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	看護科 1年生					
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、骨筋について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				1. 骨と骨格、骨の組織について説明できる。
	○	○				2. 骨の働きと形態について説明できる。
	○	○				3. 骨の構造と機能を部位に応じて説明できる。
	○	○				4. 関節の構造について説明できる。
	○	○				5. 筋肉について説明できる。
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 1 人体の構造と機能 解剖生理学 講師配布資料					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	骨と骨格・骨の組織、骨の働き・骨の形態				配布資料の事前通読 解剖生理学 総論 通読
	2	骨の構造と機能、頭の骨、背骨、腕の骨、骨盤、下肢の骨				
	3	関節の構造、筋肉について				
	4	骨の構造、足の筋肉について				
	5	骨の解剖				
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験(原・新鹿)	◎	◎			
						評価割合
						100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 解剖生理学Ⅲ 1単位取得には、(解剖生理学Ⅲ骨筋100%+神経100%+腎100%+生殖器100%)/4=60%以上が必要。					

科目名	解剖生理学Ⅲ 脳神経						
科目名(英)	Anatmy PhysiologyⅢ Brain and Neuron						
単位数	1単位	時間数	8/30	担当者	名取良弘		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、脳神経について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 脳神経の組織について説明できる。	
	○	○				2. 脳神経の働きについて説明できる。	
	○	○				3. 脳神経のの構造と機能を部位に応じて説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 1 人体の構造と機能 解剖生理学 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	脳神経系の構造と機能				配布資料の事前通読 解剖生理学 総論 通読	
	2	人間の生活行動や意思のすべてを司る中枢の意味について					
	3	脳神経系が人間の生活に果たす役割と影響					
	4	まとめ 振り返り					
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(名取)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 解剖生理学Ⅲ 1単位取得には、(解剖生理学Ⅲ骨筋100%+神経100%+腎100+生殖器100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	解剖生理学Ⅲ 腎臓						
科目名(英)	Anatomy PhysiologyⅢ Kidney						
単位数	1単位	時間数	8/30	担当者	藤崎 毅一郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、腎臓器について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. ネフロンを述べる事ができる。	
	○	○				2. 糸球体の濾過と尿細管の再吸収、分泌により尿が生成される過程を述べる事ができる。	
	○	○				3. 尿に含まれる物質をあげる事ができる。	
	○	○				4. 無尿、乏尿、多尿を提議する事ができる。	
	○	○				5. アルドステロンが腎臓に及ぼす影響について説明できる。	
	○	○				6. 排尿の機構を述べる事ができる。	
	○	○				7. 尿道の構造について男性と女性の差を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 1 人体の構造と機能 解剖生理学 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	腎臓(腎臓の構造と機能、尿の生成、血液成分の調整)			配布資料の事前通読 解剖生理学 総論 通読		
	2	尿細管、膀胱、尿道					
	3	排尿の生理(蓄尿の機構、排尿の機構、骨盤底筋群の役割)					
	4	泌尿器系の成長と老化					
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(藤崎)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 解剖生理学Ⅲ 1単位取得には、(解剖生理学Ⅲ骨筋100%+神経100%+腎100%+生殖器100%)/4=60%以上が必要。						

<b>科目名</b>	解剖生理学Ⅲ 生殖器					
<b>科目名(英)</b>	Anatomy PhysiologyⅢ Genital					
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	4/30	<b>担当者</b>	辻岡 寛	
<b>実施年度</b>	2019年度	<b>実施時期</b>	後期	<b>実務家教員 担当科目</b>	○	
<b>対象学科・学年</b>	看護科 1年生					
<b>授業概要</b>	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、生殖器について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。					
<b>授業形式</b>	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
<b>学習目標 (到達目標)</b>	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				卵巣の機能を述べるができる。
	○	○				卵管、子宮、膣と膀胱、直腸との位置関係を説明できる。
	○	○				排卵の時期を述べるができる。
	○	○				月経周期に伴う子宮内膜の変化、下垂体前葉ホルモンおよび、卵巣ホルモンの変化を述べるができる。
	○	○				精子の産生後、射精されるまでの経路を述べるができる。
	○	○				精巣の特殊な細胞の名所を挙げ、それらの機能を述べるができる。
	○	○				男性の付属生殖腺の名所、開口部、および分泌物の役割を説明できる。
	○	○				陰茎の構造を説明できる。
○	○				男性ホルモンの機能を述べるができる。	
<b>テキスト・教材 参考図書</b>	ナースングラフィカ 1 人体の構造と機能 解剖生理学 講師配布資料					
<b>授業計画</b>	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	女性生殖器(卵巣、管空系の構造、女性外生殖器の構造、性周期、妊娠と出産、乳腺、女性生殖器の成長と老化)			配布資料の事前通読 解剖生理学 総論通読	
	2	男性生殖器(男性生殖器の構造、男性の外生殖器の構造、生殖機能、男性の生殖器の成長と老化)				
<b>評価方法</b>	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験(辻)	◎	◎			
						評価割合
						100%
<b>履修上の注意</b>	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 解剖生理学Ⅲ 1単位取得には、(解剖生理学Ⅲ骨筋100%+神経100%+腎100+生殖器100%)/4=60%以上が必要。					



科目名	生化学									
科目名(英)	Biochemistr									
単位数	1単位	時間数	30	担当者	日高大輔 有吉裕子					
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○					
対象学科・学年	看護科 1年生									
授業概要	生化学とは生命現象に関する事柄を化学的に解明しようとする学問である。生体の構造や機能について分析し、生命現象の本質を知ることとからだの不思議発見について学ぶ。									
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				1. 生体構成元素、分子構造、酸と塩基)を学び、理解する。				
	○	○				2. 体の最小構成単位である細胞の構造と機能を理解する。				
	○	○				3. 糖質、脂質、蛋白質の構造と機能(働き)を理解する。				
	○	○				4. 核酸(DNA、RNA)の基礎(構成単位、構造)を理解する。				
	○	○				5. 体内での水と無機質の役割を理解する。				
	○	○				7. ホルモンの種類と働きを理解する。				
	○	○				8. 代謝とは、どういうことなのかを理解する。				
	○	○				9. 酵素とはどういうものなのか、又その働きを理解する。				
	○	○				10. 核酸(DNA、RNA)の合成と分解を理解する。				
	○	○				11. 細胞の適応現象について述べるができる。				
	○	○				12. 肥満について述べるができる。				
	○	○				13. 循環障害について述べるができる。				
	○	○				14. 遺伝情報とは何かを知り、全て私達の体や体内物質はこの情報を基に作られていることを理解し、その工程を説明できる。				
	○	○				15. 代謝の異常が疾患につながりについて説明できる。				
テキスト・教材 参考図書	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能2 臨床生化学									
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示					
	1	生化学を学ぶための基礎知識			配布資料の事前通読					
	2	化学の基礎知識			配布資料の事前通読					
	3	細胞の構造と機能			配布資料の事前通読					
	4	糖質 脂質 蛋白質			配布資料の事前通読					
	5	核酸、水と無機質			配布資料の事前通読					
	6	血液と尿			配布資料の事前通読					
	7	ホルモン			配布資料の事前通読					
	8	代謝のあらまし			配布資料の事前通読					
	9	ビタミンと補酵素、酵素			配布資料の事前通読					
	10	脂質代謝、糖質代謝			配布資料の事前通読					
	11	蛋白質代謝			配布資料の事前通読					
	12	核酸代謝			配布資料の事前通読					
	13	代謝の異常、ポルフィリン代謝			配布資料の事前通読					
	14	遺伝情報			配布資料の事前通読					
15	先天性代謝異常			配布資料の事前通読						
評価方法	二人の講師の筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	筆記試験	◎	◎				100%			
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。									

科目名	病理学						
科目名(英)	Pathology						
単位数	1単位	時間数	15	担当者	大屋 正文		
実施年度	2019年度	実施時期	通期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学	看護科 1年生						
授業概要	身体の正常な構造・機能の学習を踏まえた上で、機能の不調が何故起こり、どのように現れるのか、疾病が起こるメカニズムについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 病理学で学ぶ内容について説明できる。	
	○	○				2. 細胞・組織の障害と修復について説明できる。	
	○	○				3. 循環障害について説明できる。	
	○	○				4. 炎症と免疫、移植と再生について説明できる。	
	○	○				5. 感染症について説明できる。	
	○	○				6. 代謝障害について説明できる。	
	○	○				7. 老化について説明できる。	
	○	○				8. 先天異常と遺伝子異常について説明できる。	
○	○				9. 腫瘍について説明できる。		
テキスト・教材参考図	系統看護学講座 病理学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	病理学総論			配布資料の事前通読		
	2	細胞・組織の障害と修復			配布資料の事前通読		
	3	循環障害			配布資料の事前通読		
	4	炎症と免疫、移植と再生医療			配布資料の事前通読		
	5	感染症、代謝障害			配布資料の事前通読		
	6	老化と死			配布資料の事前通読		
	7	先天異常と遺伝子異常、腫瘍			配布資料の事前通読		
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
修上の注	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	病態生理学Ⅲ 骨筋系						
科目名(英)	Pathophysiology III. Bone muscle system,						
単位数	2単位	時間数	20/45	担当者	原俊彦		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	骨筋系、がもたらず身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。骨筋系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 運動の機能と構造について述べるができる。	
	○	○				2. 骨の病態や治療法について述べるができる。	
	○	○				3. 骨折の治療、種類について述べるができる。	
	○	○				4. 脊椎骨折・脊髄損傷、骨折、脱臼、打撲について述べるができる。	
	○	○				5. 骨粗鬆症について(原因・症状・治療)述べるができる。	
	○	○				6. 痛風、偽痛風(原因・症状・治療)について述べるができる。	
	○	○				7. くる病、骨軟化症、上皮小体機能亢進症について述べるができる。	
	○	○				8. 骨腫瘍(良性・悪性骨腫瘍)の症状・治療について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 運動器 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	運動の機能と構造			配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読		
	2	骨の病態や治療法					
	3	骨折の治療、種類					
	4	脊椎骨折・脊髄損傷、					
	5	さまざまな骨折、					
	6	脱臼、打撲					
	7	骨粗鬆症					
	8	痛風、偽痛風					
	9	くる病、骨軟化症、上皮小体機能亢進症					
	10	骨腫瘍(良性・悪性骨腫瘍)					
評価方法	・筆記試験評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(原)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅲ2単位取得には、(病態生理学Ⅱ運動器100%+(脳神経内科80%+脳神経外科20%)/2=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅲ 脳神経系						
科目名(英)	Pathophysiology III. Nervous System						
単位数	2単位	時間数	24/45	担当者	名取良弘 高瀬敬一郎		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	脳神経系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。脳神経系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 末梢神経損傷について述べるができる。	
	○	○				2. 運動機能・意識障害について述べるができる。	
	○	○				3. 脳神経系の様々な障害について述べるができる。	
	○	○				4. 脳神経系の検査(神経学的検査・髄液検査・脳血管撮影・CT・3DCT・MRIなど)について述べるができる。	
	○	○				5. 脳神経系の疾患について症状と治療を述べるができる。	
	○	○				6. 脊髄疾患について述べるができる。	
	○	○				7. 脳神経外科系における検査・診断・治療について述べるができる。	
	○	○				8. 開頭術とその術後管理について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 脳神経 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	末梢神経損傷				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	2	意識障害、運動機能障害について					
	3	脳神経系の様々な障害					
	4	検査(神経学的検査・髄液検査・脳血管撮影・CT・3DCT・MRIなど)					
	5	クモ膜下出血・脳内出血・脳梗塞・一過性脳虚血発作、					
	6	神経痛、単神経障害、末梢性顔面神経麻痺、神経と筋疾患、					
	7	中毒、パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、					
	8	脳炎、脳腫瘍、髄膜炎、神経梅毒、破傷風、クロイツフェルトヤコブ病、てんかん、認知症					
	9	脱髄疾患(多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎)					
	10	脊髄疾患(脊髄血管障害、脊髄動脈奇形、脊髄炎、急性・慢性脊髄疾患)					
	11	脳神経外科系における検査・診断・治療					
	12	開頭術とその術後管理					
評価方法	・2名の筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(名取)	◎	◎				80%
	筆記試験(高瀬)	◎	◎				20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅲ2単位取得には、(病態生理学Ⅱ運動器100%+(脳神経内科80%+脳神経外科20%)/2 = 60%以上が必要。						

科目名	治療論 I 薬理学 漢方治療						
科目名(英)	Therapeutics I Pharmacology						
単位数	1単位	時間数	45	担当者	梅田 勇一 田原英一		
実施年度	2019年度	実施時期	通期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	医療現場で用いられている薬物療法を受ける人々への看護につなげられるよう、薬物の知識と管理・薬物療法について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	目標		
	○	○			薬物治療における病気・使用目的・ナースの役割が説明できる。		
	○	○			薬の作用のメカニズムが説明できる。		
	○	○			薬物の影響(反復投与による薬効への影響・薬の治療域と作用点・受容体と投与経路)が説明できる。		
	○	○			薬の管理の注意点が説明できる。		
	○	○			感染症治療薬に関する基礎知識が説明できる。		
	○	○			抗アレルギー薬・抗炎症薬の作用と特徴が説明できる。		
	○	○			神経伝達物質と交感神経・副交感神経作用薬の作用が説明できる。		
	○	○			中枢神経系に作用する薬物の作用が説明できる。		
	○	○			心臓・血管系に作用する薬物の作用が説明できる。		
○	○			呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物の作用が説明できる。			
テキスト・教材 参考図	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち 臨床薬理学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	薬物治療の目指すもの:薬による病気の治療			配布資料の事前通読		
	2	薬物治療の目指すもの:薬の使用目的、薬物療法に重要なナースの役割					
	3	薬理作用:薬の治療域と作用点					
	4	薬理作用:受容体と投与経路、吸収・代謝・排泄					
	5	薬効に影響する因子:反復投与による薬効への影響					
	6	薬物の有害作用:過量のおこる背景					
	7	薬物の有害作用:薬物使用の有益性と有害性					
	8	薬の管理の方法と新薬の誕生					
	9	抗感染症薬:感染症治療薬					
	10	抗感染症薬:合成化学療法剤、抗ウイルス薬					
	11	抗アレルギー薬・抗炎症薬					
	12	神経活動に作用する薬物					
	13	中枢神経系に作用する薬物					
	14	心臓・血管系に作用する薬物					
15	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1名の講師の筆記試験にて評価を行う。</li> <li>・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。</li> <li>・漢方治療に関しては筆記試験無し</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
修上の注	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	微生物学					
科目名(英)	Microbiology					
単位数	1単位	時間数	15	担当者	丸谷 知美 的野多加志	
実施年度	2019年度	実施時期	通期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学	看護科 1年生					
授業概要	微生物の基礎知識、感染と発病、感染予防と治療について学ぶ					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標
	○	○				微生物の種類と特徴をおおまかに説明する
	○	○				微生物と人間の生活について説明する
	○	○				細菌の形態と配列・染色性について説明する
	○	○				物理的・科学的環境、物質代謝について説明する
	○	○				染色体・プラスミド・変異について説明する
	○	○				常在細菌叢の功罪・分布について説明する
	○	○				細菌との違い、真菌の抵抗力について説明する
	○	○				原虫の特徴と基本構造、原虫の感染について説明する
	○	○				ウイルスの特徴、基本構造、増殖過程について説明する
	○	○				ウイルス学的分類、臨床的分類について説明する
	○	○				感染・感染症・病原性・生体防御機構について説明する
	○	○				上皮によるバリアー、生理学的防御、常在細菌叢による防御について説明する
	○	○				食中毒・水系感染について説明する
○	○				バイオハザードとバイオセーフティー バイオハザード・バイオセーフティーについて説明する	
○	○				細菌学的検査法について説明する	
テキスト・教材 参考図	系統看護学講座 微生物					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	第1章 微生物と微生物学				配布資料の事前通読
	2	第2章 細菌の性質				
	3	第3章 真菌の性質				
	4	第4章 原虫の性質				
	5	第5章 ウイルスの性質				
	6	第6章 感染と感染症:微生物感染の機構				
	7	感染の成立から発症・治癒				
	8	細菌感染の機構、真菌感染の機構				
	9	ウイルス感染の機構				
	10	第7章 感染に対する生体防御機構				
	11	第8章 感染源・感染経路からみた感染症				
	12	第9章 感染症の予防				
	13	第10章 感染症の診断				
	14	第11章 感染症の治療				
15	第12章 感染症の現状と対策					
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験(的野)	◎	◎			50%
	筆記試験(医療従事者)	◎	◎			40%
	筆記試験(丸谷)	◎	◎			10%
修上の注	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	看護学概論 I						
科目名(英)	Introduction to nursing science I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	光武 和寿		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	看護の基本となる概念、看護の本質、生活の要素と健康の関わりなど、看護の対象としての人間理解への機会とする。さらに看護理論家を通して看護のパラダイムはもとより、看護に関する歴史また未来の見通しについても伝え、看護学の本質を理解させるとともに、各領域の看護学への興味関心の基礎とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				看護の歴史の変遷を通して看護の概念・役割を説明できる。	
	○	○				看護専門職者として今後の看護の課題と方向性について説明できる。	
	○	○				健康の概念を広く捉えて説明する。	
	○	○				看護の対象ある人間の理解に加え、生活者としての人間についても説明する。	
	○	○				看護の機能と役割について説明する。	
○	○				看護職者としての倫理的態度を身につける意義を説明する。		
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 16 看護学概論 基礎看護学 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	看護の責務とその広がり				配布資料の事前通読	
	2	看護への導入				配布資料の事前通読	
	3	看護の対象とその理解				配布資料の事前通読	
	4	健康と病気におけるウエルネスの促進				配布資料の事前通読	
	5	ライフサイクルと健康				配布資料の事前通読	
	6	看護実践のための理論的根拠				配布資料の事前通読	
	7	看護における倫理と価値				配布資料の事前通読	
	8	看護ケアの基本的役割				配布資料の事前通読	
	9	看護過程				配布資料の事前通読	
	10	看護における法的側面				配布資料の事前通読	
	11	保健・医療・福祉システム				配布資料の事前通読	
	12	看護の展開と継続性				配布資料の事前通読	
	13	看護ケアのマネジメント				配布資料の事前通読	
	14	災害看護の基礎				配布資料の事前通読	
15	国際看護				配布資料の事前通読		
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技術Ⅱ							
科目名(英)	Basic nursing technology II							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	野中紀子 尾崎恵美			
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○			
対象学科・学年	看護科 1年生							
授業概要	医療・療養環境を整える技術として環境、安全予防(滅菌操作含む)、死のケアの内容を教授する。							
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				1.健康生活と環境との関連が説明できる。		
	○	○				2.快適な環境状態のアセスメントができる。		
	○	○	○	○		3.快適な病室環境を整えるための援助技術の実施ができる。		
	○	○				4.安全安楽な技術の必要性について理解し説明できる。		
	○	○				5.死のケアを通して自己の死生観について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	環境整備の意義					テキスト事前通読、適時課題実施	
	2	療養環境を整えるとは						
	3	病室環境のアセスメントと調整						
	4	学内演習(ベッドメイキング)						
	5	学内演習(臥床患者のベッドメイキング)						
	6	まとめ・振り返り						
	7	安全とは						
	8	安全を守るための技術(スタンダードプリコーション)						
	9	安全を守るための技術(感染性廃棄物・医療器材の取り扱い)						
	10	学内演習(滅菌物の取り扱い)						
	11	学内演習(滅菌物の取り扱い)						
	12	振り返り・まとめ						
	13	危篤時の看護						
	14	死亡時の看護						
	15	サプライ見学(施設見学)						
環境	・筆記試験(環境:50%)+(安全:50%) 合計100% ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。 ・点数には含めないが、技術については演習で評価を行う。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
		筆記試験(野中)	◎	◎			50%	
		筆記試験(尾崎)	◎	◎			50%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。							



科目名	基礎看護技術 III						
科目名(英)	Basic nursing technology III						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	野中 紀子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	対象把握の技術であるフィジカルアセスメント(バイタルサイン・記録報告含む)について教授する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 対象の健康状態を評価する意義と方法を説明できる。	
	○	○				2. 基本的なフィジカルイグザミネーションを実施でき、正常な身体状況を説明できる。	
	○	○	○	○		3. バイタルサインの測定および記録・報告ができる。	
	○	○				4. 以下の系統別のフィジカルアセスメントの実施・評価ができる。 (呼吸器系・消化器系・循環器系・感覚器系・運動器系・中枢神経系)	
	○	○	○	○		5. 看護における記録・報告の意義と方法を説明し、実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	観察とは				テキスト事前通読、適時課題実施	
	2	観察の目的・方法(系統的、直感的観察法)					
	3	観察の視点(身体的・精神的・社会的アセスメント)					
	4	観察の手段(問診、視診、触診、聴診、打診、身体計測)					
	5	看護におけるフィジカルアセスメント・フィジカルアセスメントに共通する技術					
	6	フィジカルアセスメントの5つの基本技術(問診、視診、触診、打診、聴診)					
	7	バイタルサイン(バイタルサインとは、測定方法とアセスメント)					
	8	フォーカスアセスメント					
	9	各フィジカルイグザムのポイント					
	10	VS測定の実際、記録・報告					
	11	フィジカルアセスメントの実際					
	12	身体計測の実際					
	13	記録とは(記録の目的・記録の方法・種類)					
	14	報告とは、報告の実際					
15	まとめ						
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験 合計100%</li> <li>・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。</li> <li>・点数には含めないが、技術については演習で評価する。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(野中)	◎	◎	◎	◎		100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技術 IV 食事・排泄						
科目名(英)	Basic nursing technology IV						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	野中 紀子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	生活を整える技術である食事・排泄の内容について教授する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1.栄養と食事の基礎知識が説明できる。	
	○	○				2.栄養と食事のアセスメントが説明できる。	
	○	○	○	○		3.栄養状態を整えるための援助技術が習得できる。	
	○	○				4.排泄の基礎知識が説明できる。	
	○	○				5.排泄のアセスメントが説明できる。	
	○	○	○	○		6.排泄の援助技術が習得できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	栄養と消化吸収機能			テキスト事前通読、適時課題実施		
	2	食事の意義、援助の目的、食事ニーズの把握と阻害要因					
	3	栄養状態のアセスメント					
	4	栄養状態が低下している患者への援助、臥床患者への食事介助演習					
	5	排泄の意義、排尿・排便のメカニズム					
	6	排尿・排便行動のアセスメント					
	7	排泄の基本的援助(環境整備)					
	8	排泄の基本的援助(排泄器具と設備)					
	9	排泄の基本的援助(床上排泄の援助方法)					
	10	排泄の基本的援助(排泄と感染予防)					
	11	排尿・排便障害時の援助					
	12	尿器便器を用いた援助					
	13	一時的導尿、持続的導尿の援助					
	14	浣腸、摘便の援助					
15	まとめ						
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆記試験(食事:30%)+(排泄:70%) 合計100%</li> <li>筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。</li> <li>点数には含めないが、技術については演習で評価する。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	食事:筆記試験(野中)	◎	◎				30%
	排泄:筆記試験(野中)	◎	◎				70%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	小児看護学方法 I						
科目名(英)	Pediatric nursing method I						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	岡松 由紀		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	援助に必要な知識の基盤として、小児期の代表的疾患、症状の特徴、身体的・心理的・社会的発達に影響する因子を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他		
	○	○			目標 1.小児の成長発達過程における基本的な生理を理解し、小児期における疾患の特徴と診断・治療について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	統計看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／臨床看護総論 統計看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 臨床看護各論						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	先天異常			テキスト・配布資料の事前通読		
	2	新生児の疾患			テキスト・配布資料の事前通読		
	3	代謝性疾患① 新生児マススクリーニング			テキスト・配布資料の事前通読		
	4	代謝性疾患② 糖尿病・低血糖症			テキスト・配布資料の事前通読		
	5	内分泌疾患(甲状腺疾患)			テキスト・配布資料の事前通読		
	6	免疫疾患・アレルギー疾患			テキスト・配布資料の事前通読		
	7	感染症① ウイルス感染症			テキスト・配布資料の事前通読		
	8	感染症② 細菌感染症			テキスト・配布資料の事前通読		
	9	呼吸器疾患			テキスト・配布資料の事前通読		
	10	循環器疾患① 先天性疾患			テキスト・配布資料の事前通読		
	11	循環器疾患② 川崎病・突然死			テキスト・配布資料の事前通読		
	12	消化器疾患			テキスト・配布資料の事前通読		
	13	悪性新生物(ウイルス腫瘍・神経芽細胞腫)			テキスト・配布資料の事前通読		
	14	腎疾患(糸球体腎炎・ネフローゼ症候群)			テキスト・配布資料の事前通読		
	15	神経疾患(痙攣性疾患・脳性麻痺)			テキスト・配布資料の事前通読		
評価方法	筆記試験 60%以上を合格都市、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						